

新潟市総合計画審議会 第1回 第3部会 会議録

日時：平成26年7月10日（木）9:30～

会場：市役所本館6階 第2委員会室

事務局 それでは定刻でございます。第1回の第3部会の会議を開催させていただきます。私、司会を務めさせていただきます事務局の政策調整課の井崎と申します。どうぞよろしくお願いを申し上げます。

当部会の会議につきましては、公開をすることとし、記録作成のため録音及び撮影をさせていただきたいと思っております。なお、今後の会議につきましても同様となりますので、よろしくお願い申し上げます。なお、本日は、取材のため報道機関も来ておりますので、ご承知おきをお願い申し上げます。

はじめに篠田市長より、資料1に基づきまして、「にいがた未来ビジョン」の概要等についてご説明をさせていただくことになっております。よろしくお願いを申し上げます。

市長 皆さん、おはようございます。今日はお忙しいところ、第1回の部会ということでお集まりいただき、誠にありがとうございます。これから部会ごとで、本格的なご審議・ご議論をいただくということで、よろしくお願い申し上げます。

今日は私のほうから、資料1、次期総合計画「にいがた未来ビジョン」について、簡単にご説明をさせていただきます。

今までの新潟市のまちづくりの流れでございますが、新潟、大合併をして政令指定都市になることが決まった時期に、この合併マニフェストというものを作らせていただきました。新潟がどういう方向でまちづくりを進めていくのか、選挙を行わない行政マニフェストという形で、合併マニフェストをお作りし、市民の皆さまにお示ししたということでございました。

新潟は本州日本海側最大の港湾都市であり、また、開港五港の一つでもあります。そういう湊町と日本一の美田、田園地帯が一緒になったということでございます。そういったまちの性格から言って、新潟のまちづくりを考えると、世界、大地、地域ということが非常に重要なポイントであると当時から認識をしておりました。それを基に、「世界と共に育つ日本海政令市」、「大地と共に育つ田園型政令市」、「地域と共に育つ分権型政令市」という、この大きな3つの都市像を踏まえて総合計画などを作ってきたということでございました。

今回、皆さま方にお示しした素案の中で3つの都市像が示されているわけ

でございます。最初の都市像は、「市民と地域が学び高め合う、安心協働都市」ということで、これは「地域」ということだろうと考えております。地域の力、地域の絆、この育成を強力に支援する都市にしてまいりたいということでございます。市民や地域が主役となる都市という方向を目指すということで、皆さま方にお配りした素案の「8年後の姿」に、いくつかポイントを書かせていただいております。それにプラス、我々、こんなまちにしていきたいということ、今後ポンチ絵のようなもので、市民の皆さまにわかりやすくお示しをしたいと思っております。

そういうときに、地域包括ケアシステムの構築、あるいは地域の茶の間というものを通してコミュニティハウスをつくっていくということ、男女共同参画を大切にする、ワーク・ライフ・バランスの尊重というようなことも念頭に行っていきたいと思っております。また、ひまわりクラブは既に3つの地域でコミュニティ協議会に運営をお願いしておりますけれども、こういうものを地域で運営する、子ども・子育て支援を強化していくんだと。そして、学校が地域に開かれ、地域から信頼され支援される仕組みづくり、この強化も図ってまいりたいと。それから、まちづくりセンターなどの地域の複合施設、そこには公共交通もできるだけつないでいくというようなものが、我々の目指すこの1番目の都市像であるということ、今回補足で書かせていただいております。

そして、2点目、「大地」のほうであります。こちらは都市像で言いますと、2番目、「田園と都市が織りなす、環境健康都市」ということであります。ちょうど農業特区にご指定いただいたので、そこからいろいろご提案が出ている。その中で、新潟は素晴らしい田園資源を持っているのだから、それをもっとフル活用したらどうか、田園資源の徹底活用を図る都市になったらどうかというようなご提案もいただき、これも非常に重要な視点だということで、今回書き込ませていただきました。

田園や大地の持っている力・資源、これを最大限に引き出し、有効活用する都市、それはどういう都市なのかということ、皆さまからぜひお考えいただきたいと思っております。

さらに具体的に申し上げますと、農業特区、これを活用して我々が進めようとしている6次産業化、あるいは、今構想を描いて23年から進めているニューフードバレー構想、この実現を図っていく。さらに、今、間伐材のペレットストーブが秋葉区などで活躍しているわけですが、今度は刎殻ペレットも開発いただいたということで、そういうものを本格導入して、再生可能エネルギーを利用する田園資源の徹底活用は、これはできるんじゃないかと。バイオコークスというものができると、雑草類も資源として利用

できるということになります。

また、田園の持っている力、これを6次産業化だけではなくて、子育て、教育、そして、福祉、さらに医療にまで結び付ける10次産業化をやっていくべきだというようなご提案もいただいております。新潟は、子育てのところは食育・花育センターで一步踏み出しているわけですが、さらに泥んこ遊び、そしてまた、野菜くずを利用した「菌ちゃん」野菜づくりで成功している地域もあります。こんなものを使って大地・農業を子育てにもっともっと活用できるんじゃないかというような視点でございます。

教育の部分は今年度から農業体験と食育、これをすべての小学生に味わってもらおう教育ファームが本格的に始まるので、これは新潟の大きな特徴にしていけると思っております。さらに、全国各地では農業と障がい者が非常に相性がいいということで実践が進みつつございます。農業を活用して、障がい者の方やひきこもりの方、就業困難者の方が、農業で社会参画していくということがかなり有効ではないかと。欧州ではケアファームという形でもう既に実態がつくられているわけですが、新潟もそういうものやっていくべきではないかという切り口であります。

そして、田園・大地の持つ可能性、これを最大限生かして、6次産業にプラス医療・福祉・子育て・教育、これを加えれば10次産業になると。特に「医食同源」という言葉があるわけですが、これが今、あまりしっかりとした柱になってないような気がいたします。「医食農同源」を実現する都市ということで、医療、あるいは病気にならないような健康食、こういうものをもっともっと新潟はアピールしていくべきではないかというような視点でございます。

そして、3番目の「世界」というところでは、「日本海拠点の活力を世界とつなぐ、創造交流都市」。これは、新潟は本州日本海側のセンターに位置しており、環日本海の拠点都市でもあると。残念ながら環日本海は、ある面では世界で最も難しい地域の一つであるわけですが、その環日本海の平和、非核、そしてまた国際交流、国内交流、そういうものを率先して創造していく都市、平和交流の率先創造都市に新潟はなれるのではないかとということで、環日本海に位置する開港都市として、アジア、ユーラシアの平和への貢献、国際交流を創造・実践する都市というもので、この都市像の3点目を具体的に書いているということでございます。

そして、切り口としては平和・交流都市のネットワークの構築。今、農業特区で使命として出されている農産物の輸出、これをしっかりやっていく。そして、国際観光ルートの要にもなっていくと。この秋にはユネスコ食文化創造都市、登録をいただけるかどうか結論が出るわけですが、登録を

いただいたら徹底的にこれをアピールして、農業特区と相乗効果を出していくことが重要ではないかと。また、東アジア文化都市、今年、横浜市が東アジア文化都市としてスタートしたわけですが、これからは毎年日本で1つ都市を選ぶということなので、そこに手を挙げていきたいと思っております。そのとき、クリエイティブシティのシンボルとして、踊り、光、水辺の演出、こういうものを行っていったらどうかと。また、交流の中で、単なる観光地ではなくて、関係地づくりが大事だと思います。日常観光、田園資源観光、こういうものを大事にしてさまざまな関係をつくっていく、そんな都市になっていきたいということでございます。

3点目のところに、「都市像を実現するために」ということで書かせてもらっております。これは主に第1部会でのご議論ということになるのかと思いますが、新潟はこれからコンパクトなまちづくり、人口減少の中でどう多核連携型都市をつくっていくか。田園と市街地が調和する新潟らしいまちづくりを進めることが重要だと考えております。

そして、市民に信頼される開かれた市政の推進ということで、まずは市政情報、これをさらに積極的に開示していく。定員の適正化、行政改革を通じた経営品質の向上、市民から信頼される市政をさらに推進していく必要があると思っております。

また、持続可能な財政運営が持続可能なまちづくりの土台であるので、8年後を見通した財政、そして、これをどういうふうに試算していくかということで、市議会には2つのものを提示してあるわけですが、その2つのシナリオでいくよりも、やっぱり一本化していきたい、そしてご議論をいただきたいと思っております。

復興需要などによりまして、労務単価、資材単価が高騰しているということでございます。例えば新潟駅の連続立体交差事業、周辺整備事業関係だけでも100億円増加するというので、非常に大きな数字が出てきております。こういうものが今後大体2割方事業費がプラスになるということを頭に置かなければならないと思っております。

そういう中で、プライマリーバランスへの配慮、あるいはファシリティマネジメント、新潟は市民1人当たり最も公共施設の持っている面積が大きいというまちでございますので、今後はそれぞれの施設をそれぞれの目的でやっていくのではなくて、できるだけ機能・サービスを落とさずに箱物については統合させていただくことで、ファシリティマネジメントの考え方が重要ではないかということでございます。そして、その複合化、総合化された施設にできるだけ公共交通で行けるようにしていく。そんなまちを目指すべきではないかというようなポイントを書かせていただきました。

その辺りを皆さま方もぜひ頭に置いていただき、これから積極的、活発なご議論をお願いしたいと思っております。

私のほうから申し上げるだけ申し上げて、これからまた別の公務がありますので、退席させていただきますが、何とぞよろしくお願い申し上げます。

大変ありがとうございました。

事務局 ありがとうございます。それでは、篠田市長は次の公務がございますので、ここで退席をさせていただきます。

市長 申し訳ありません。よろしくお願い致します。

事務局 なお、7月7日、あるいは本日の午後、7月14日に他の部会の第1回目の会議が予定をされております。市長からは同じ話を各部会の冒頭にてさせていただき予定、あるいはことにしております。よろしくお願い申し上げます。

それでは、部会委員の皆さまをご紹介させていただきます。お手元の資料2をご覧くださいませ。部会委員の名簿になります。私のほうから五十音順にお名前を読み上げさせていただきます。まずは阿部委員でございます。

阿部委員 よろしくお願いいたします。

事務局 そのお隣が、五十嵐委員でございます。

五十嵐委員 よろしくお願いいたします。

事務局 そのお隣、岩佐委員でございます。

岩佐委員 よろしくお願いいたします。

事務局 そのお隣、川上委員でございます。

川上委員 よろしくお願いいたします。

事務局 その向かい側になります。霜鳥委員でございます。

霜鳥委員 よろしくお願いいたします。

事務局 そのお隣、山中委員でございます。

山中委員 よろしくお願いいたします。

事務局 そのお隣、渡邊委員でございます。

渡邊委員 よろしくお願いいたします。

事務局 なお本日は市野瀬委員、郷委員、古川委員が欠席となっております。「新潟市総合計画審議会規則」第4条、第5条におきまして、審議会および部会の会議につきましては、「委員の定数の半数以上の委員が出席しなければ開くことができない」とされておりますが、10名中7名の委員の方がご出席ということで過半数に達しておりますので、会議が成立していることをご報告申し上げます。

続きまして、本部会の部会長の選出に移らせていただきます。部会長は部会の委員の互選により選出することになっておりますが、私ども事務局といたしましては、岩佐委員に部会長をお願いしてはどうかと考えております。

委員の皆さま、いかがでございましょうか。

(「異議なし」の拍手あり)

事務局 ありがとうございます。それでは部会長は岩佐委員にお願いをいたします。岩佐委員、恐れ入りますが、お席のご移動をお願い申し上げます。

それでは部会長から、ひと言ごあいさつを頂戴したいと思います。

岩佐部会長 新潟大学の岩佐と申します。恐れ多くも部会長を仰せつかりました。先ほど、最初に市長さん自らご説明いただくということで、まさかそういう重要な会だと思っていなかったの、少し、責任の重さを実感しております。どうぞ有意義な議論となりますように、大変なところも多いと思いますけども頑張りますので、どうぞよろしく願いいたします。

事務局 ありがとうございます。次に職務代行者の指名でございます。審議会の規則第5条におきまして、「部会長が欠けたとき又は部会長に事故があるときは、部会に属する委員のうちから部会長があらかじめ指名する者がその職務を代行する」とされておりますので、岩佐部会長、職務代行者のご指名をお願い申し上げます。

岩佐部会長 では、私からの指名ということですので、渡邊委員にお願いしたいと思いますが、お引き受けお願いできますでしょうか。

渡邊委員 よろしく願いいたします。

岩佐部会長 ありがとうございます。よろしく願いいたします。

事務局 それでは、本部会におきましては、部会長に岩佐委員、職務代行者に渡邊委員ということをお願いを申し上げたいと思います。

今後の進行につきましては部会長をお願いをしたいと思います。なお、審議に当たりましては、事務局の他に関係各部の部長等がご説明および質疑の対応をさせていただきます。それでは岩佐部会長、よろしく願い申し上げます。

岩佐部会長 では、次第に従いまして議事を進行させていただきます。当部会で審議する分野は、都市像Ⅱの「田園と都市が織りなす、環境健康都市」の部分です。本日の審議事項は、この中の政策⑤「地域資源を活かすまち」、ページで言うと84ページ。皆さん「にいがた未来ビジョン 素案」と書いてあるものをお持ちだと思います。こちらの素案の84ページから86ページまでとなります。それでは、ご説明をよろしく願いいたします。

文化スポーツ部長 おはようございます。文化スポーツ部長の長井と申します。よろしく願いします。

それでは、説明のほう座ってさせていただきたいと思います。

ただ今お開きいただいております、素案の84ページ、政策⑤「地域資源を活かすまち」から説明をさせていただきます。

市民の皆さまと共有する将来イメージである「8年後の姿」につきましては、田園と都市のそれぞれの魅力が調和し、農業体験や豊かな食文化などにより、市民がまちに対する誇りや愛着をもちながら、さまざまな活動が行われるなど、市民がいきいきと暮らし、まちの魅力が向上している姿です。

具体的には、以下、記載がありますように、「食と農」による地域づくりが進み、市民が「食文化」や「田園」に誇りをもち、農業が果たす新たな価値が作り出され、さまざまな分野、産業との連携が広がっています。また、「水と土」などの地域の個性を活かしたまちづくりが進み、まちの魅力につながっているというものです。

次に、「現状と課題」についてです。恐れ入りますが1枚めくっていただき、85ページの図⑤-1、「本市の魅力の現状」の円グラフをご覧ください。県外在住で新潟市を知る方に実施したアンケートによりますと、「本市の魅力」を「食」と回答している人が最も多く6割近くを占めています。次いで、「自然」、「町並み」の順となっています。また、「新潟市が改善すべき」こととしては、「魅力の発信」と回答している人が最も多くなっています。

それでは、84ページにお戻りいただきまして、1点目については、今説明を申し上げました。2点目からになります。全国的に若年無業者やひきこもりが増加していますが、農業体験など自然と触れ合うことが自立に向けた第一歩になると考えられています。

3点目として、本市のアイデンティティである「水と土」をテーマに、平成21年と平成24年に「水と土の芸術祭」を開催し、「海と川」や「港」、「食と花」に焦点を当て、素晴らしい水辺空間や美しい景観を市民全体で共有・共感しただけでなく、自らが企画し運営する「市民プロジェクト」にも多くの方から参加いただき、文化の創造に取り組んできました。今後も水と土の象徴である「潟」に光を当てるなど、新たな魅力の創出や市民文化のウェーブを巻き起こし続けることが求められています。

1枚めくっていただきまして、85ページです。市内には、地域に根差し、受け継がれている文化資源が数多くあります。それらを地域の活性化につなげるため、「新潟市民文化遺産」として、伝統芸能や旧跡などの文化遺産を認定し、地域の宝として維持・継承の機運醸成を図っています。

次に、86ページになりますが、これらの課題と現状を踏まえまして、3つの施策に取り組むこととしております。

まず初めに、施策14「食と農を通じた地域づくり」であります。1つ目は、本市に暮らすさまざまな人が、いくとびあ食花やアグリパークなどの施設を活用し、食育や農業体験などを通じて、田園の素晴らしさ、豊かな食、農業の魅力を感じ、新潟に暮らす誇りをもちながら、地産地消による安全な食を

通じて健康な生活につなげると同時に、食の生産地である田園と消費地である都市部との盛んな交流によりまちの活性化を図るなど、「食と農」による地域づくりを進めます。

2つ目は、新たな農業関連産業の創出を図るため、農業の6次産業化や農工商連携に取り組むとともに、医療、介護、子育て、教育といった視点を加えて、10次産業化を目指して、農業の新しい価値を創造し、農業を核とした地域づくり・人づくりを進めます。

3つ目は、農業・食分野に関わる大学や専門学校などとの連携を推進し、英知をまちの活性化に活かすとともに、新たな力を生み出す人づくりを進めます。

次に、施策15「まちの活力に活かす『水と土』」であります。海や川、潟などの水辺や、豊かな田園、里山など、本市のアイデンティティの一つである「水と土」から、新たな価値をつくり出し、市民と地域の成長につなげるとともに、市民一人ひとりの生活における楽しみや市民交流の活発化を通して、まちに対する誇りや愛着を育むと同時に、まちの魅力の向上へつなげることで、交流人口の拡大を図ります。

最後に、施策16「地域の個性、歴史、文化に根ざしたまちづくり」であります。これまで各地域で守り、受け継がれてきた豊かな自然や歴史、文化など、地域の個性を活かしたまちづくりを進め、それぞれのまちなかの活性化につなげるとともに、その魅力を内外に発信し、地域間の連携を強化することで、都市全体の大きな魅力につなげ、定住人口・交流人口の拡大につなげます。

以上、政策⑤「地域資源を活かすまち」について説明申し上げました。よろしく申し上げます。

岩佐部会長 ありがとうございました。続きまして、事務局のほうから、その他、添付いただいた資料についてご説明をお願いいたします。

事務局 それでは、お手元にお配りしてあります、マンガ、イラストについてのご説明をさせていただきます。

私、事務局の政策調整課、堀越と申します。よろしく申し上げます。

今回の総合計画の策定に当たりましては、「わかりやすさ」というものをポイントとしております。その「わかりやすさ」については、先日、全体会において少しご案内いたしましたとおり、計画の内容や言葉そのもののわかりやすさへの配慮に加えまして、市民の皆さまが、この総合計画で描く8年後のまちの姿をよりイメージしやすくするために、イラスト等を用いて表現をすることにしております。

ご案内のとおり、総合計画の素案については、3つの都市像とその下に11

の政策という形で構成をしておりますが、おおむね部会でご審議いただく単位である 11 の政策ごとに 1 枚ずつ作成し、お配りする予定としております。

皆さまにお配りしたものは、今日ご審議いただく内容である政策⑤「地域資源を活かすまち」についてのイメージイラストになります。

まず、左上ですが、田園と湊町が一体化した新潟市の様子をご覧いただけるとと思います。その下には、子どもや、ある意味これまで農業にあまりなじみのなかった人々など、農業体験を通じてさまざまな関係が広がっている様子。その右下、本市の豊かな自然の象徴ともいえる潟の魅力が人々をひきつけ、さらにそこに暮らす人々の誇りとなっている様子。その上段、右上には地域の歴史文化ということで、花街どおりをそぞろ歩く芸妓さんの様子。これらを描くことで、この政策が目指す 8 年後の姿である食と農や自然、歴史文化など、地域資源を活かすことで広がるいきいきとした市民生活の様子を表現したところです。

イラストに関する説明は以上でございます。

岩佐部会長 ありがとうございます。ここまで、ただ今、ご説明いただいた内容についてご意見やご質問をお願いしたいと思います。ご自由にご発言いただいて構いません。どうぞよろしく願いいたします。

渡邊さん、お願いいたします。

渡邊委員 今ほどのイラストについてですけれども、先ほど新しい総合計画は市民の皆さんにわかりやすい形にするということでお話がありました。このイラストはそのまま市民の方に公開されるものになるのでしょうか。

岩佐部会長 いかがでしょうか。

事務局 この審議会のご議論を踏まえてイラストの修正等あるかもしれませんが、基本的には市民の皆さまにも公開をさせていただこうと思っておりますし、本日の資料等につきましても、終わり次第、ホームページ等で公開をする予定にしております。

渡邊委員 それであれば、例えば萬代橋はすごく財産だと思うんですけれども、萬代橋のことがもう少し明確になったらいいのかなとか、ウォーターシャトルがなぜ載ってないのかしらとか、いろんなここのイラストの背景に物語を付けてあげないと、これを見ただけでは誰もわからないと思うんです。これにピックアップするものについて、もう少し検討する必要があるんじゃないかと、これを拝見してそう思いました。

それともう 1 点が、「新潟市の魅力」ということで、84 ページのところ「食」とありますが、この食がどういう食かというアンケートはとられているのでしょうか。

岩佐部会長 いかがですか。

事務局 食のところの細かいアンケートについてはとっておりませんが、新潟市の食と花の銘産品として 27 品目を指定をしたり、あるいはずっと首都圏の方々が多くおっしゃるのは米や酒などという形でお聞きをしておるところです。

渡邊委員 確かに「新潟市の魅力」と聞かれた場合に「食」というのは大きなものではあると思うのですが、先日、ある講演会でお聞きしたのが、新潟は市民が枝豆をものすごく食べる。全国平均の 3 倍食べるそうなんです。5 月から 11 月まで期間もすごく長く食べるのと、種類が 40 種類ぐらいあるということが、とても他の市町村とは違う魅力であるということなので、「食」とただひとくりに書くのではなく、食の中でもこういう特色があるよというようなことを、きちり発信しないと。東京等で枝豆と言ったら、失礼ながら山形のただ茶豆というようなイメージになったりするの、そこを転換する方法が必要じゃないかと。なので、「食」と、どれか 1 つを推進するというのは難しいのかもしれませんが、そういうデータから見たらものすごく新潟市の特色というのが見えてくるような気がするの、その辺のことも統計上どうかということをお示ししていただくと、進め方というのが見えてくるのかなと思います。

岩佐部会長 どうもありがとうございました。イラストもそうですし、先ほど食の指摘もそうですけども、魅力や地域資源というときに、ざっくりと言うのではなくて、もう少しその解像度を上げていくというか、そういうことが必要ではないかというご指摘だと思います。どうもありがとうございます。

他はいかがでしょうか。では、五十嵐さん、お願いいたします。

五十嵐委員 今までご説明いただきましたし、イラストも見せていただいたんですけど、見ますと、あまりにもきれい過ぎるのではないのでしょうか。もうちょっと庶民的な要素もあってよろしいんじゃないかと。特に新潟市の場合ですと、やはり今まで大きく発展してきたのが、古町ですよね。それから、各地域においても各商店街でもってにぎわってきたわけです。今の話聞きますと、そういうものはほとんどこの中に入っていないと。そうすると、もう都市づくりも今までの中心から郊外のほうに振り分けられてしまったという感じがしますが、東京、大阪を見ますと、相変わらず商店街はものすごくにぎわっているわけです。何で地方がこういうふうになって弱って衰退してきているのかということになりますと、やはりこの活用がうまくいっていないんじゃないかと私は考えるのです。今回の資料の中でもそういう部分出して。あまりにもきれい過ぎるということで、少し話をさせていただきました。

岩佐部会長 ありがとうございます。何かご説明ありましたら、よろしく申し上げます。

事務局 今、ご指摘の古町を含めましたまちなかの活性化等につきましては、施策

15 ですか、別のページに記載をしている部分がございます。今後、審議が進む中で、またご意見を頂戴できればと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

岩佐部会長 ありがとうございます。確かにそうですね。食をどこで消費するかというときに、やっぱり商店街もそうですし、新潟の中に市場も実はたくさんあったり、そういう場もすごく重要になってくると思いますので、引き続き、そういったことも議論できればとは思っています。どうもありがとうございました。

他はいかがでしょうか。では、山中委員お願いします。

山中委員 今、五十嵐委員から発言があったことと多少関連すると思うのですが、ここで言うところの「地域資源を活かすまち」といった場合、「地域資源」という言葉の持つ意味そのものを、例えば商店街とか、私は東区の自治協のほうから選出されているんですが、東区で言うところのものづくりの資源とか、そういったものがイメージされてしまうと、何でここに商店街が入ってないのか、何でここに製造業が入ってないのかというような感覚を持つと思うんですよね。

確かにそういったものは、素案の 15 ページの「雇用が生まれ活力があふれる拠点」とか、その辺りで語られるのかもしれないので、ここで言うところの「地域資源」というのは、「田園と都市が織りなす、環境健康都市」という大きくくりの中では、農的なものや環境的なものというところに限定されている気がします。それがもう少しわかるような表現にしたほうが誤解を生じないのではないかという気がしました。以上です。

岩佐部会長 そうですね。ありがとうございます。他に何か。

事務局 ご指摘の意見を踏まえて少し検討させていただきたいと思います。

岩佐部会長 そうですね。「地域資源」という言葉は非常に語が広くて、魅力的な言葉なので、何でもつつい盛り込んでしまうんですが、それぞれでやっぱり一番フォーカスしなければいけないところがあると思います。山中委員、もしご存知であれば、「地域資源」以外にこんなときに具体的に言うような言葉が何かございましたら、教えていただきたいなと思って。

山中委員 例えば、「地域資源を活かすまち」というよりは、「地域環境資源を活かすまち」といったほうが、もう少しここにフォーカスされるのかなと思ったりしているんですが。

岩佐部会長 そうですね。それもぜひご検討いただければ。特にここでの議論にふさわしい呼び方というのも考えてもよいかと思います。どうも、ありがとうございます。

他はいかがでしょうか。もし何かご意見がございましたら。では、阿部さ

ん、よろしくお願いいたします。

阿部委員

一応ここは、「田園と都市が織りなす」という項目だと思うんですが、特にイラストが少しマンガ的になっているような感じがするんです。こういう形のほうがアピールするにはいいのかななんて気もしますけども。

それからまた欲張り過ぎて、全部入れようとする、非常に難しいのではないかなという気がします。そういうことで、これから議論する中でどうかしてくると思うんですが、感じたことをお話ししました。

岩佐部会長

ありがとうございます。そうですね。確かにどうも総花的になってしまうと。特にイラストの場合はイメージが強いので、すごくそこに固定されてしまうから、何でもつつい入れてなくなってしまうところがあるんですが、そこら辺の工夫はもう少し必要かもしれないですね。でも、これは非常に野心的で理解を得やすい方法だと思うんですが、ぜひもう少しいろいろ上がってくればなと思います。

他はいかがでしょうか。どうでしょうか。ちょっと恐れ多くも部会長のほうから、感想というか意見を述べさせていただきたいのですが、ここで、先ほど五十嵐さん、渡邊さん、山中委員からもご指摘があった点とすごく似ているのですが、「食」をうたうときに、その消費の仕方というか、「食文化」のところはすごく重要ではないかなと思うんです。

一番冒頭の8年後の姿のところにも「食文化」という言葉が書かれてはいますが、実際の施策レベルで見たときに、どうしてもまだ食をプロダクトというか、生産物として捉えているような印象があって、それをどのように使用していくかで、6次産業化とも非常につながってくると思います。特に新潟独特の作られたものをどういうふうに活かしていくのかということですね。そういうものももう少し盛り込むことができたらいいのではないかなという、感想ですが、思いました。

他はいかがでしょうか。よろしいですか。では、川上さん、よろしくお願いいたします。

川上委員

私は、今、お話しいただいた食文化に関してですが、先ほど市長のほうで「医食同源」という言葉が出てきましたけども、身土不二と言って、地域でとれたものを食べてその地域の人たちが健康になっているという、そういう言葉の扱いとか。それから、あとは食が健康にまつわるような、例えばいろんなすごくいい特産品がたくさんあるんだけど、それを食べるとこういう健康にいいとか、こういう入っているものが体にこんなふうには作用しているんですよとか。例えばうちの地区ではブドウ栽培が盛んなのですが、ポリフェノールが入っていて女性の更年期にとってもいいとか、そういった発信の仕方があると、消費者にとってはこれから健康、高齢化に向かっていく

ときに、すごく消費するときのポイントになって面白いのかなと思うんですけど、いかがでしょうか。

岩佐部会長 ありがとうございます。補足等ございますか。

事務局 ありがとうございます。委員ご指摘のとおり、85 ページの図5-①の下段のほうですが、「あなたが思う『新潟市の改善すべきこと』は」では、「魅力の発信」がまだまだ新潟市、改善をすべきところと挙がっております。このたびの総合計画の基本構想、基本計画部分につきましては、おおまかな政策、施策のことが記述をされていまして、こうやって魅力の発信をしますとか、こういう健康にいいことがある食品をどうやって売っていくのかという具体の取り組みについては、今後、この計画に基づいて実施計画や、いろんな予算のところで議論が始まるものと理解をしていますので、そういったところで、今、委員の言われたこと等をよく検討してまいりたいと思います。86 ページでも、例えば「交流人口の拡大を図ります」というような取り組みの方向観をお示ししてございますけども、当然交流人口というのは、新潟にご来訪いただく方々へどうやって情報をお届けするか、新潟の情報を適切にお届けしなければ交流人口の拡大はしていかないわけで、その辺の具体の取り組みの一つの方策として、今ご指摘のところを踏まえてまいりたいと考えております。

岩佐部会長 ありがとうございます。施策14に「農業・食分野に関わる大学や専門学校との連携」というところもあるので、おそらくこういったところで食べ物とか、ひょっとして科学的な部分もそうかもしれませんけども、そういったところの知見を高めていくみたいなのもあるのではないかなと、私は思いました。どうもありがとうございます。

他は。では、五十嵐さんお願いいたします。

五十嵐委員 85 ページの「本市の魅力の現状」で「食」が59%で、圧倒的に強いんです。私、秋葉区の小須戸地区で一番心配しているのは、何しろ人口が減っている。ということは、跡継ぎがないんですね。そうすると、「食」に関してもものすごく影響してきているんじゃないかということ。今、じいちゃん、ばあちゃんが中心となって何とか野菜類とか料理を作っております。

ただ、稲作に関してはいろいろ組織ができて、最近ある程度は衰退しないで済んでいるんですけど、特に新潟県では野菜類とか魅力があると思うんです。そういう点が、この59%にもものすごく影響してくるのではなかろうかとちょっと心配しているんです。

岩佐部会長 どうもありがとうございます。いかがでしょうか。何かコメントなどございますか。

農林水産部長 後ろからすいません。農林水産部長の松宮でございます。

今、委員のほうからご指摘いただいたとおり、農業については特に担い手というところが非常に課題になっているかと思っております。そういった中で、いろいろな施策により、担い手の確保に今努めてきているところがございますけれども、またいろんなご意見、アイデアをいただきながら、また新たな担い手の施策、あるいは営農振興ですね、そういったものも努めていきたいと思っております。

岩佐部会長 どうもありがとうございます。そうですね、食を通じて、人がもっと集まってきたり、仕事にもつながっていけばすごくいいのかなという感想ですけど、思います。

他はどうでしょうか。では、山中委員お願いいたします。

山中委員 食じゃなくて、今度、「水と土」の関係ですね。いいですか。

岩佐部会長 そうですね。ぜひお願いします。

山中委員 84 ページで、丸ポチの最後で水土が触れられていて、さらに 86 ページの施策 15 がそれを語っているんですが、ここで語られている水と土に関しては、いわゆる資源として海や川、水辺、それから里山とか、田園がありますという、現時点においての水と土に着目した表現になっています。そのもともとのいわゆる新発田藩、長岡藩時代からの新田の開発や、あるいは亀田郷の土地改良など水と土のたたかいによって現在の新潟が成り立っているという辺りを、ちょっと触れることで、この施策の意味が深まるんじゃないかという気がしまして。もしかすると、それは施策 16 の絡みなのかもしれないし、他にも言われているのかもしれませんが、せっかく、水土というのであれば、その歴史的な経緯も触れるといいのではないかと思います。

岩佐部会長 ありがとうございます。何かありますか。コメントや補足などどうですか。

事務局 今、委員ご指摘のところにつきましては、少し考えさせていただきたいと思っております。基本構想の前段の部分で、新潟市の歩みというもの若干は載せておりますが、水土のたたかいに限定して載せているわけでは決してございませんので、その辺を施策につながるような形で、少しご検討させていただく時間をいただければと思っております。

岩佐部会長 そうですね。まさに水とのたたかいがアイデンティティともつながってくると思うんですね。まさにここでも新しい価値をつくり出すと書かれてますけど、既に今まで水と土から価値を生み出してきたという歴史も踏まえたほうが、すごくこのアイデンティティ、私たちの土地なりの愛着であったりとか、歴史とすごくつながってくると思いますので、ぜひご苦労いただければと思います。どうもありがとうございます。

確かに今は、つつい食の話が中心だったので、水土であったり、施策 16 あたりも含めて、ご自由にご意見いただければと思います。当然 14 のところ

でも構いませんけども、いかがでしょうか。では、よろしく願いいたします。

霜鳥委員 ピントが外れた発言になってしまったら大変恐縮なんですけども、施策 16 で、地域の魅力を活かしたまちづくりを進めることで、結果、定住人口、交流人口の拡大につなげるという記述がありますが、こういったまちづくりを進めることで、交流人口の拡大にはつながるとは思うんですね。そのまちを訪れる人が増えたりとか、そういったことにもつながると思うんですが、定住人口の拡大というのが、どのようにしてここからつながっていくのかが、ちょっとわかりづらいなと思います。いかがでしょうか。

岩佐部会長 どうも、ご指摘ありがとうございます。その辺り、いかがでしょうか。確かにこれは重要な指摘だと思いますが。

文化スポーツ部長 ありがとうございます。文化スポーツ部長の長井でございますが、確かにおっしゃるとおりで、単に地域の魅力を磨いただけでは定住人口の増加にはつながらないかもしれません。我々が想定しておりますのは、例えば歴史・文化を活かした取り組みの中で、それを経済・産業につなげていくと。地方を活性化させて、そこに勤める人なり、また、娯楽であれば遊びに来る人なりということで、それがまた定住人口のほうにつながっていくという流れで考えているんですが、この文章だけだとそこまで読み取れない部分もありますので、文章のほうを少し検討させていただきたいと思います。ありがとうございました。

岩佐部会長 ありがとうございます。確かにそうですね。「大きな魅力」のその後に、大きな産業であったり、そういうことが、仕事やそういうものにつながる言葉があると、少し説得力が増してくるのかなとちょっと思いました。どうもありがとうございました。

 他はいかがでしょうか。どうでしょうかね。

 では、本日は市野瀬委員と郷委員、あと古川委員が欠席ということですが、もし事前にご意見などいただいているようでしたら、ご紹介いただけないでしょうか。

事務局 本日のご欠席の3委員の方からは特段、ご意見を頂戴しておりません。

岩佐部会長 そうですか。わかりました。

 ということなんですけども、まだもう少し時間がありますが、いかがでしょうか。全体を通してでも構いませんし、非常に基本的なことでももちろん構いませんので、何かお気付きのことなどございましたら、いかがでしょうか。では、お願いします。

渡邊委員 ここの今日の議題というのは、施策の「地域環境資源」にするのか、「地域資源を活かすまち」の「現状と課題」の2番目に、全国的に若年無業者やひ

きこもりが増加して、農業体験などというようなことは、施策 14 につながるということでいいんでしょうか。現状があって課題があるから、この施策が 3 つあるという、何となく課題にこれを挙げているつながりがよく見えないなど。地域づくり・人づくりを進めていきますというところなのかなとも思いますけど、わざわざこれを課題として挙げていることに対して、何か施策としてこうですよということを言わなくていいんだろうかという。ここの分野はこれが現状と課題で、それに対して新潟市としては施策 14 から 16 を対応させているんだと思うんですね。その辺のつながりが今、大変な問題だと思うんです。若年無業者やひきこもりというのは数が増えていますし、それは社会の損失にもなりますし、それぞれの人生が成り立たないということがある。そこに対して手立てを問題として挙げるのであれば、具体化すべきではないかなと思います。

それと、先ほど、山中委員がおっしゃったように、水土というところで、信濃川、阿賀野川、それでいろんな水とのたたかひの歴史ということをつけ加えてくださるんだと思うんですけど、新潟市と言ったら、日本一の大河、信濃川というのがやっぱりリンクする河口の都市で、信濃川から見る日本海とか、水辺のつながりというのがものすごく特徴的なことだと思うので、そういうことをやはり。前にも書いてあるから、ここで書かなくていいということはないような気がするんです。

文章がすごく長くなってしまうのは、非常にまた読みにくいことではあるんでしょうけれども、この総合計画を全部読むかといったら、市民の方は読めないと思うんですね。だとしたら、食と農とか、水と土と開いたときに、そこに、新潟とリンクする言葉が具体的にがあると、非常にわかりやすさにつながるんじゃないかなと思いました。以上です。

岩佐部会長 ありがとうございます。大きくは 2 点ご指摘があったと思いますが、いかがでしょうか。ご説明ありますでしょうか。よろしくお願いします。

事務局 1 点目の 84 ページの 2 つ目の丸のところについては、渡邊委員からご指摘のとおり、施策 14 につなげる意識で記述をさせていただいております。

資料 1 で市長のほうから申し上げましたように、田園・大地の持つ力を最大限に活かしつつということで、現在は 6 次産業化、農商工連携という部分でございますが、今後につきましては、医療や福祉、子育て、教育ということを念頭に置きながら、農業というものを考え捉え直していこう、あるいは農業の価値を新しく創造していこうというような記述で、施策 14 の 2 ポツの表現をしたつもりでございます。

それから、後段のご指摘につきましては、表現を含めてまたちょっと検討させていただきたいと思います。ただ、ご指摘の中にもありましたように、

いろいろな言葉をまた盛り込んでいくと読みづらいということもありますので、全体のバランスも見させていただいて、またご報告なりさせていただければと思っております。

岩佐部会長 どうもありがとうございます。そうですね。特に信濃川の河口という、非常に豊かな自然の上に新潟のまちが成り立っていて、それをまたこれから利用していくんだというところは非常に重要なポイントだと思いますので、ぜひ、しつこくなってしまうかもしれませんが、繰り返すことがもしかしたら重要かもしれませんので、ぜひご検討いただければと思います。ありがとうございます。

他はいかがでしょうか。では、五十嵐さんお願いします。

五十嵐委員 84 ページの水と土について一つ聞きたいんですけど、私もコミ協の会員なものですから、この水と土の芸術祭に参加しまして、県外の芸術家の方を呼んで、いろいろなものを作っていたわけなんですけど。そして、バスもぐるっと回らせてもらいました。

でも、新潟市としてはこれをどういう形で利用するのかというのが、ちょっと先見えませんでした。その点教えてもらえないかなと思います。

岩佐部会長 いかがでしょうか。では、お願いいたします。

観光・国際交流部長 観光・国際交流部の石塚と申します。今ほどのご紹介にありました市民プロジェクトは多くの皆さんに参加いただいて、それぞれの地域の誇りといえますか、自分たちのその地域を愛する気持ちをまた育てていただいているということで、それが非常に大きなうねりとなっていくべく、私たちも市民プロジェクトがアートプロジェクトと並んで、非常に大事な柱の一つと考えております。

そうした地域の人たちが自分たちの地域を愛しながら、そうした美術作品を通じて、またそこに磨きをかけて、そこがまた、外から来る人にとっての魅力になるというようなことで、循環していけばと考えております。

そうした意味から、市民プロジェクトについては今後も拡大の方向で進めさせていただきたいと思っております。

岩佐部会長 ありがとうございます。よろしいですか。ちょっとここで確認ですが、今回、素案では、施策、政策の審議は対象ということなのですが、既にいろいろ地域で展開されている取り組みはここで議論しても大丈夫なんですかね。どうなんでしょうか。例えば今のお答えが公式な見解なのかということなんですけども。

事務局 先ほどちょっと触れましたように、このたびのご審議賜るものは基本構想、基本計画ということで、あくまでもこの諮問案に対してご審議を賜るということにしております。ただ、ご発言の中で具体の取り組みを引き合いに出し

ながら、あるいは想定しながら、そういった施策の方向性を委員の皆さまからご意見をいただくということは非常に有用なことでございますので、具体の取り組みのご発言は一向構わないと考えております。では、その具体の取り組みをここで書くかということになりますと、全体計画のレベル感や、記載の方向もでございますので、それは後ほど予算ですとか、この計画に基づきます実施計画といったものの中で検討させていただく際に、委員のご発言については参考にさせていただくということにしたいと考えております。

岩佐部会長 ありがとうございます。

 他はどうでしょう。いかがでしょうか。では、お願いいたします。

山中委員 環境健康都市という都市像の「現状と課題」の中に、阿賀野川の新潟水俣病のことについて触れなくていいのでしょうか。発生源は阿賀町ですけども、患者がいる地域の多くは合併後の新潟市域になっていますし、今なお解決したとは言えません。ここの施策で食と農を通じた地域とか、そういうつながりで言うと、なかなか表現は難しいかもしれないけれども、触れるべきではないかというような気がいたします。

岩佐部会長 ありがとうございます。その辺り、もしお考えがありましたら、お教えいただきたいんですが、いかがでしょうか。ちょっと難しい問題かもしれない。

事務局 委員のご指摘の件につきましては、市民の方々の健康づくりのようなことについては、都市像Ⅰで記述されています。具体的な今お話のあった件を記述するかどうかにつきましても、そちらの部会のご審議の中身を見ながら、ご検討させていただきたいと思えます。

岩佐部会長 ありがとうございます。他はどうでしょうか。いかがでしょうか。

 私のほうからですが、今日、市長さんのほうからご説明いただいたところですね。おそらく我々のところに一番関係あるのは、この地域の「大地」と思うんです。そこでも出ているんですが、一番下の「10次産業」という言葉を私は初めて知ったんですけども、どういうものなのか、もう少し具体的にご説明いただければなど。

農林水産部長 それでは、10次産業についてですが、ご承知のとおり、今、全国的に農業の6次産業化が言われているかと思えます。それは1次産業、2次産業、加工ですね、それから販売の3次を合わせて6次と言っております。この「10次産業」につきましては、大々的に発言をしだしたのは市長かと思っておりますが、先ほど来お話しをさせていただいております、医療、それからひきこもりの方々の福祉、子育て、教育、その4つを足して10次というような話をしております。

 例えば教育につきましては、新潟市で先般オープンをさせましたアグリパークという中で、農業体験ですね、これを学習につなげていくというような

取り組みを既に始めております。

それから、福祉のひきこもり対策などについても、一部の農業生産法人の方だったり、あとは農協の方がひきこもりの方を雇用していただいて、農業の従事者として社会参画をしていただく取り組みが、始まっているところがございます。

そういったものをもう少し広げていって、高齢化した方々の生きがいつくり、健康づくりをしていくというような医療であったり、そういったものにも取り組んでいきたいというところがございます。詳細につきましては、今後、実施計画を作っていく中でも議論をしていくことで考えております。

岩佐部会長 どうもありがとうございます。ということは、市長のご発言でも、新しい造語みたいな感じでしょうか。

農林水産部長 そうですね。

岩佐部会長 定義をもう少し十分に練る必要あるかもしれませんが、もしかしたら非常に特徴的になる言葉かもしれないので、もしそれがちゃんとアピールできるものであれば、こういう施策にもガンと入れてしまうと、実際には多分いろいろ定義はあって難しいかもしれないですが、非常に魅力的な言葉ではないかなと思いました。感想ですけども。

他はいかがでしょうか。全体を通して、何かご自由にご発言いただければと思います。では、お願いいたします。

渡邊委員 この素案の作り方についてですが、今のように10次産業という言葉をもし使うのであれば、コメントというか、注書きを入れてほしいと思います。また、例えば先ほどの水と土の施策15に関しても、ここに記述が難しいのであれば、「参照何ページ、本市を取り巻く状況のどこどこを見てください」というような、この素案の中でいろいろつながりがある項目があると思うんですね。そのつながりにはここでは十分書き切れないけど、こっちを見たらより深く理解できますよというような、参照ページのコメントを入れていただくなど工夫していただくと、すごくわかりやすい形になるのではないかなと思いますので、ご検討いただければと思います。

岩佐部会長 いかがでしょうか。

事務局 委員の皆さまには用語集ということで、準備会のおきにお配りをさせていただきましたが、本冊を刷るときに、ページ内にご説明させていただいたほうがいいのか、別途、用語集などをお付けしたほうがいいのかというのを踏まえて、少し事務局のほうでわかりやすい言葉、あるいは用語の解説等につきまして、検討していきたいと考えています。

渡邊委員 つながりになるものについてとか、市民の方に今後の新潟市政や新潟市の現状というのは、私たち一人ひとりの市民がよく現状を把握する、知る必要

があると思うんですね。人口がこれからものすごく減って行って、少子高齢化という現実がそこにもう迫って、ひどい状況になっていくと思うので、いろんな機会に市民の皆さんに情報をよりわかりやすく提供していく方法を、検討していただけたらと思います。よろしくをお願いします。

岩佐部会長 どうもありがとうございます。そうですね。こういう絵も加わるみたいですから、いろんな形の情報が盛り込まれたほうが、非常に読みやすいものになるのかなと思います。

他はいかがでしょうか。では、お願いします。

五十嵐委員 区ごとに子育ての場所や、教育、学校がありますけど、学校に関してはこの中に入っているんですか。特に少子化で人口減ってますよね。そういうことによって学校の統合がよく言われまして、ものすごく今心配しているんですよ。この地域から学校がなくなるのではないかと。そうすると、まちづくりも学校なくなるとどうなるんだ、計画しても何にもならないのではないかと、一層少子化でもって人口が減っていくのではないかと、そういう心配があるのですが、それに関してもっと具体的な話が書かれてもいいのではないかなという気がいたします。

岩佐部会長 ありがとうございます。いかがでしょうか。では、ご説明いただけますかね。どうでしょうか。他に書いてあるかもしれないですけど。

地域・魅力創造部長 本当に人口減少、少子、高齢化も含めて非常に大きな問題になります。今、教育の分野について申し上げますと、都市像Ⅰで、「子どもを安心して産み育てられる」ということと、「学・社・民の融合による教育を推進する」ということを掲げてございます。少子化とそれに伴う小学校、中学校の児童・生徒の減少は本当に大きな問題だと思っております。地域の核になる学校が地域から消えてしまうというようなことが、ある程度の統合、複式学級等の対応といったことで、避けて通れない部分はあるかと思いますが、そこをできるだけ抑えていきたいということを、都市像Ⅰのほうで検討させていただくことにしております。

また、そういったことの周りの整備ということで、例えば今ご審議いただいている農業体験を通じて健康に育てていただく、家族で地域で子どもたちを支えていただくといったようなことを総合的に捉えながら、地域の核である学校が消えてしまわないように、工夫はさせていただくことを考えております。

岩佐部会長 よろしいですかね。地域の個性をいかすときには、拠点になるのは学校が一番重要だと思いますので、その辺りもぜひ後のご検討になるかと思います。

では、お願いします。

五十嵐委員 ありがとうございます。今ですと、統合という話が先へ進んでいるみた

いですが、小中一体化というのは考えられないのでしょうか。そうすると、意外と地域に残ると子どもも考えたんですけど、小学校、中学校に分かれますと、やっぱり地域からなくなってしまう。何かの形で学校が残ってもらえれば、地域の方も安心してくれる。そういうことで、一体化が今後どうなるのかというその辺を。

地域・魅力創造部長 最近やはり市長も、その地域から学校をなくしてしまうことの問題点の大きさはいろんなところでお話しになっておられます。その一つの方法として、今おっしゃった、1つの校舎で、子どもが少なくなってきたときに、小学校と中学校を一緒にするというようなことも時々言及されることがございますので、当然選択肢の一つになるかと思えます。ただ、それについては当然ですけども、地域の皆さまとしっかり話し合った上で、どちらの学校にどうするという辺りが出てきますので、そういった課題を本当に地域の方とご相談しながら進めていくことになりまして、また、市全体の中での学校の配置のあり方といったようなところも含めた大きな検討の中での位置づけも必要になりますが、ご指摘の考え方は一つ大事なところだと認識しております。

岩佐部会長 どうもありがとうございました。

どうでしょうか。では、お願いいたします。

渡邊委員 85 ページの「本市の魅力の現状」というアンケート調査ですが、資料がサポーターズ倶楽部の会員さんを中心としてというところなんだろうが、母数、回答数が非常に少ない中でこのグラフが作られているのではないかと、計算すると思うんですけど。他に新潟市の魅力は何かというのを調査した資料はあるのでしょうか。これだけに基ついでこれを挙げて、どうこう検討するには、アンケートの母数が百三十いくつぐらいですよ、これでいいのかなどこの数字を見て思うのですが、いかがでしょうか。

岩佐部会長 いかがでしょうか。要するに、他にこういう分析があるんだとか、現状を見る上でこれでふさわしいとお考えになるのか、その辺りがもしわかればということですが。他の指標というのがありますか。

観光・国際交流部長 特にこれまで…。今、志民委員会というところもございまして、新潟のアイデンティティのようなことを聞いている資料はございますが、こうした魅力をあえて聞いているというのはありません。しかしおっしゃるとおり、母数は少ないかもしれませんが、一定の方向性というか、大枠のつかみで、新潟に関してはこんな思いがあるのだなということは、これでわかるのではないかと考えておりますが。

渡邊委員 ではこうやってサポーターズ倶楽部、要するに県外の方に対してアンケートをとって、新潟のことを聞いてみたというのは、25年が初めてですか。

観光・国際交流部長 すみません。これまでであったのかもしれませんが、このたび、総合計画を作るに当たりまして、やはりこうしたご意見を聞いた上で参考にさせてもらおうということで、今回とったものでございます。

岩佐部会長 要するに、今後もやるかもということですか。

渡邊委員 例えば前にとったものがあるなら、そこと比較しても大体傾向が同じなのかどうか分かるかなと。それであればこのことについて検討するというのも重みが出てくるかなと思ったのですけど。

地域・魅力創造部長 新潟市として市外・県外の方に聞き取りをしたものがちょっと少なくなっておりまして、母数が少ないというご指摘、もっとものことでございます。ただ、これからちょっと調査させていただきまして、例えばいろんなランキングを付けている会社とか、そういうリサーチ会社がありますが、新潟市の魅力が全国で何位だとか、そういったところのデータから、その魅力というのは何に魅力があるのかという辺りを調べてみます。もしお出しできるものがあれば、後で提出させていただきます。

岩佐部会長 そうですね。おそらく企業でも一番重要な戦略が、マーケティングの部分だと思いますので、確かにおっしゃるようにざっくりと「食」と言われてもというのはあるので、ぜひこちら辺の解像度というか、もう少し詳細な資料があると、こういう施策の上でも非常に大きなバックグラウンドになってくるのではないかなと思います。どうもご指摘ありがとうございます。

いかがでしょうか。他、何か最後に付け足すことなどございましたら。

では、そろそろ時間になりましたので、以上で第1回の部会を終了させていただきます。本日いただいた意見については、私のほうで整理して、意見についての対応は事務局にお願いしたいと思います。これ、追加で何か思いついたことがあったらお知らせいただいても大丈夫なんですか。ということなので、もし今この場でちょっとなかなか発言しづらかったとか、もしくは今日の議論を踏まえて、思いついたことがございましたら、早急にお知らせいただければ、そちらのほうも盛り込むことができるということですので、よろしくお願いたします。

以上で事務局に進行をお返しいたします。

事務局 ありがとうございます。今ほど部会長のほうからお話がありました件については、次回の第2回目の部会の冒頭で、今回の意見集約をする予定にしておりますので、もしありましたら早めをお願いしたいと思います。

それでは、資料3をご覧くださいませでしょうか。次回、2回目の本部会が7月31日午前10時からでございます。その次、第3回目につきましては、8月22日金曜日の午後3時からになっております。いずれも会場が第3委員会室、お隣の部屋になっておりますので、本日とは会場が1つ隣で違います。

が、ご注意をお願いいたします。それから、改めまして文書でご案内をさせていただくことにしております。よろしくお願いいたします。

なお、部会の4回目、あるいは第2回の全体会につきましては、早期に決定してお知らせをさせていただきたいと考えていますので、よろしくお願いいたしますを申し上げます。

それでは、続きまして資料4をご覧ください。この資料につきましては、他の部会の開催の日程等をお知らせするものです。ご参考までに用意させていただいております。

それから、最後に委員の皆さまのお手元に、7月24日に開催されます「地方分権推進シンポジウム」のチラシをお配りしております。このシンポジウムにつきましては、慶應大学の小林良彰先生が、『地方財務』という雑誌の3月号で新潟州の取り組みについて記述をいただいたということもありまして、新潟州構想、新潟市・県の案への課題解決等につきまして、今後の展望など、パネルディスカッション等も踏まえて行う予定でございます。ご希望される方につきましては、ふるってぜひコールセンターのほうに、あるいは私たち事務局のほうでも結構でございますので、お申し出をいただければと思います。

また、お配りしたものはございませんが、8月23日になりますが、「デフレの正体」、「里山資本主義」の著者であります藻谷浩介さんからおいでいただき、総合計画のポイントでもあります人口減少のお話や、田園資源を活用したまちづくりをテーマにご講演をいただく予定にしております。具体的な日時につきましては、8月23日の午前10時、朱鷺メッセにおいて、講演を賜る予定です。チラシができ次第、またご案内をさせていただきます。こちらのほうもご参加をお願いしたいと思います。ご案内、ご連絡等、以上でございます。

本日はどうもありがとうございました。